

令和3年度 建設業デジタル化促進モデル事業現場見学会（有限会社国元建設）

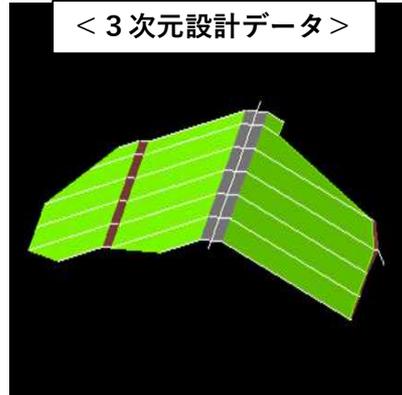
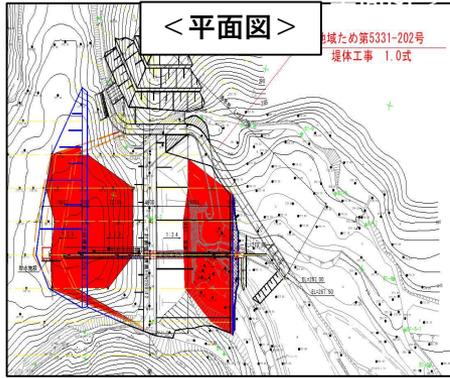
<デジタル化促進モデル事業の実施内容> 導入機器：自動追尾型TS搭載ショベル（杭ナビショベル）、自動追尾型TS（杭ナビ）

<参加者> 15名（建設会社：6社12名、高知県職員：3名）

<工事概要> 工事名：奈路地区 地域ため池総合整備奈路1号池堤体その2工事（須崎農業振興センター）

請負代金：61,721,000 円、工期：令和3年8月5日～令和4年3月17日

工事概要：堤体工事1.0式、堤体工1.0式、取水工1.0式



施工者のコメント

杭ナビショベルを導入したことで、人員削減及び、作業の効率化を図ることが出来たと実感している。
現在、1台のバックホウに設置しているが、複数の重機に設置すれば更に効果が発揮出来ると思う。

プロセス	使用機械等	従来	ICT	効果	評価
3次元起工測量	従来どおり	-	-	-	-
3次元設計データ	内製化	14人・日 (丁張設置,座標計算)	7人・日	-50%	3次元設計データを作成することで、丁張の設置等が省略できた。
ICT施工	杭ナビショベル	14人・日	7人・日	-50%	オペレーターがモニターを視認しながら施工できるため、作業指示に必要であった作業員の削減ができた。
3次元出来形管理	従来どおり	-	-	-	-
合計		28人・日	14人・日	-50%	

発注者のコメント

3次元設計データを作成し、現場での丁張設置等を省略することができた。また、施工においてもICT建設機械を使用することで作業員を削減することができた。ICTを活用したプロセスにおいて、50%の工期短縮が実現したが、今後、出来形管理において、自動追尾型TSを使用することで更なる生産性向上が見込まれる。